

きよはしだよりNo.07

発行 エンジョイ幾世橋集合！
2024. 12. 21

11月19日クリーン作戦 & 交流会

10月19日に2号棟北側駐車場のフェンスに沿う空き地に花壇を作るための下準備として、雑草の除去と土を掘り起こし、石の除去を行いました。11月16日にはその上に培養土を敷き、1000個余の大量のチューリップ球根を植える作業を行いました。その後の交流会では今後に行う予定の「餅つきと会食を通した交流会」について、実施日、実施内容等が話し合われました。



10月に準備した空き地にまず培養土を敷きました。培養土に細長い溝や穴を開け、そこに球根をおいて、培養土を埋め戻しました。皆で協力した作業は楽しく、あっという間に1000球もの球根が培養土の中に埋まりました。

12月一部で球根の芽が培養土から顔を出し始めました。掘り起こすと多数の真っ白い根が伸びていた。深く掘って埋め戻しました。

「そうそう子ども公民館」の支援を受けました。）

来春の開花が楽しみ、待ち遠しい。



交流会では「餅つきと会食を通した交流会」行事について、開催日をいつにするか話し合った結果、12月22日(日)に決まりました。うすやきね、せいろ、炊き出し用のガスコンロと大鍋、電動餅つき機、などを行政区(1区)区長の了承を得て防災倉庫から借りられる見通しも報告されました。開催場所は幾世橋集合住宅集会室、うすとガスコンロは屋外設置。ガスボンベはガス取扱店に依頼することになりました。

「もちつきと会食で交流しましょう」準備会

12月6日(金)11時から集合住宅集会室で「もちつき・会食交流会」準備の打ち合わせが、新山さん作成の資料に基づいて行われました。資料は詳細にわたっており、米の量、必要器材の手配、餅の種類、身体を温める雑煮など細部に亘り検討・決定されました。米は6升。器材の調達には主に権現堂防災倉庫(第1行政区、区長佐藤秀三さん)から20日に借ります。21日はクリーン作戦(主に5階の鳥の糞の清掃)を実施後、9時30分に集会所集合、午前にお買い出し、午後にもちつきの下準備。22日は8時に集会所集合、イベントの準備開始。午後4時に借用器材返却の予定などスケジュールが決められました。

12月9日(月)幾世橋集合住宅交流映画会(第二回目)

集会室での上映作品は「こんにちは、母さん」、令和6年度復興庁「心の復興」事業、映画文化によるコミュニティ形成事業の一環として行われました。第一回目と同様、集会室にスクリーン、プロジェクタ、スピーカを設置した迫力ある上映でした。参加者も前回の3倍以上と多く、交流会では継続して交流映画会を開催してほしいとの希望が出されました。大手会社で人員整理に苦悩する人事部長、一方、窓際族に追いやられ、荒れる友人(元課長)が解雇の危機に。部長は辞職と引き換えに友人を救う。一方、部長のお母さんはボランティアグループの一員としてホームレスの支援活動をし、生き生きとしていた。お母さんは仲間の牧師さんと一緒に路上生活者に食事を運びながら、牧師さんから人間について深い学びを得ていく。いつしか、牧師さんの人柄に恋している。空き缶を集め、生活している老人、牧師は「その老人を神の使いかも知れない」とつぶやく。終了時は大きな拍手に包まれました。

1号棟、2号棟に救急車

幾世橋集合住宅は単身者も多く、病気や事故などの緊急時の対応が悩みです。このひと月の間に救急車が3回も集合住宅に来ました。普段から孤立を避け、助け合えるようにしたいものです。体力もあり、健康な人は、あるいは周囲との交流を避け、自分の描く人生を歩むことを理想としているかも知れない。しかし、連続して救急車がくると、自分自身が緊急時に至った時、救援の連絡方法、緊急連絡先、保険証やかかりつけ医、血液型や持病など、あらかじめ準備しておくべきものは何なのかよく分かっていないのに、うろたえてしまう。皆様はどのような備えをしているのでしょうか。





川を再現する参加者（福島民報）



牛渡さん「花嫁行列」に出演

浪江十日市祭の行事の一つとして、浪江の伝統行事「花嫁行列」が再現され、地域スポーツセンターからふれあい交流センターまで、練り歩きました。11月23日牛渡孝一さんが「かご馬」として先頭に立ち出演しました。

道の駅北側の請戸川に今年も白鳥がやってきました

道の駅なみえの北側を流れる請戸川で日中、白鳥が餌を食べる様子が見えるようになりました。昨年は12月5日には飛来が認められたのに、今年は初飛来が遅かったようです。今までのところ飛来数も少ない。白鳥は朝飛来し、夕方ねぐらへ帰ります。家族で行動するようで、5羽のグループや7羽のグループなどが認められます。人けがない時は安心して岸辺に上がり、草を食べたりしています。岸辺に降りて近くから観察したくなりますが、白鳥は警戒して岸辺からは離れます。遠くの堤防から見守るのも白鳥に対する思いやり。

午後、ねぐらへの帰路、空中を舞う姿は壮観、視線がくぎづけになります。

請戸川堤防沿い遊歩道に桜苗木植樹

12月14・15日、東京農工大の学生さんが多数いて、知命寺から満開橋までの間に桜の苗木(46本)を植樹し、浪江の復興を応援してくださる県外の学生さん達がいました。



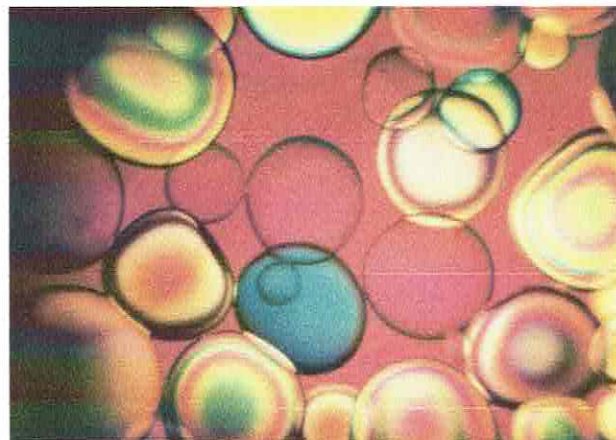
数日前には満開橋（国道6号の一つ東側の橋）より下流側の桜巨木の剪定を行っていました。県外学生さん達の至れり尽くせりのご支援に感謝感激です。

復興 夢ものがたり

息づく氷の驚異 氷に濃縮される重水、トリチウム水

前号では、水の変った性質として、何でも溶かし込む「水の寛容」と、全ての異物を排除する「氷の純潔」つまり「水の寛容・氷の排他」を紹介した。氷の中でも、透明度の高い氷は異物を含まない純粹の水になる。氷を融かし、その水を長い時間かけて気長に蒸発させていけば超高価な「重い水(H₂¹⁸O)」が濃縮されるだろう。さて、この「水で金儲け」シリーズの最終回は重水が濃縮される話です。

若い頃、陽光のもと雪上に行くピクニックがあった。豪雪地の4月、一面に広がる大草原は草原と湖の境もわからない。引率の先生がスコップで雪に穴を掘った。底の方に水が見えた。一団は湖の上まで進んでいたのだ。水の中の雪をすくい上げ、目的のものを見せてくれた。それは皆が驚きに包まれる瞬間だった。雪粒は数mmもある大きなまん丸い球、まるで宝石のように透き通って美しかった。一団は掘り出された雪粒の不思議さとそれを目の当たりにした新鮮な感動でいいしれぬ気持になった。湖に降った雪の結晶はその繊細な形を留めることはない。水に触れた瞬間、雪の結晶は丸い小さな粒に変身し、さらに雪粒同士で食い合いに似た激闘が続き、日数の経過とともに大な雪粒の集まりに変わるのだと説明された。なぜそんな現象が自然界にあるのか！と深い興味が植え付けられた。福島第一原発事故による「トリチウム水問題」を経験した今にして振り返れば、湖から掘り出された雪粒に重水やトリチウム水が濃縮されていたはずだと、気づかされる。重水は氷分子との結合が強いから、一度、雪粒に取り込まれたら雪粒内に重水が蓄積したまま、雪粒が大きくなる。つまり、この湖（朱鞠内湖）は重水を濃縮する工場だった。純粹な重水の氷が3.8℃まで融けないように、重水が濃縮した雪粒ほど融点が上昇する。



水に浸った真ん丸な雪粒

同じようなことを幾世橋集合住宅の一室で、「魔法瓶を湖とみなして、上の湖の様子を再現」してみた。まず、なみえの水を凍らせ、その氷を細かく砕いて魔法瓶に詰めた。魔法瓶は湖に見立ててあらかじめ水が入っている。数日後、雪と水を分離し、雪の温度を測ったら、わずかだが0℃より高くなっていた。重水が予想通り濃縮された証拠だ。この操作を繰り返せば、重水濃度の高い雪粒が得られると期待される。

本シリーズで紹介した、南極大陸における「重い水」や「重水」が消失した雪、国内豪雪地の雪深い湖での「重水の濃縮」した雪といい、自然は誠に奥深く偉大だ。

自然界をよく見、そのささやきに魂を傾けよう。そこで発見された不思議さの仕組みを想像し、翻って、その原理を身近な新しい創造に結びつけよう。それが金儲けにつながるなら、これまたなんと楽しいことか。

對馬